

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | | 備考 | | |
|----|-----------|-----------------|------------------------|---|------------|--|---|---|---|------|--------|------|--------|--------|-------|------|----------|------|------|------------|-----|----|-----|----------------------|
| | | | | | | | | | | 埼玉大学 | 埼玉県立大学 | 浦和大学 | 慶應義塾大学 | 芝浦工業大学 | 聖学院大学 | 日本大学 | 人間総合科学大学 | 放送大学 | 目白大学 | 国際学院埼玉短期大学 | その他 | | 大学名 | |
| 6 | 総務局 | 防災課 | 避難所運営訓練 | 災害対策基本法に基づく本市の指定避難所に指定されている施設において、災害が発生した場合の避難所の円滑な開設及び運営を図ることなどを目的とした訓練を実施する。 | 令和2年度 | 各区役所総務課の主催のもと、各施設において避難所運営訓練を実施した。 <実施状況> 埼玉大学：訓練中止。避難所運営委員会にて施設利用協議等を実施。 埼玉大学教育学部附属小学校：11/28 埼玉大学教育学部附属中学校：11/7 | 自治会、施設管理者、市職員などで構成される避難所運営委員会を中心として、災害時における避難所の開設・運営を想定した訓練や、施設利用協議などの活動を行うことで、地域コミュニティの連携強化や防災意識の醸成など、地域防災力の充実強化を図ることができた。 | | いかなる状況下でも円滑に避難所の開設運営を行うためには、防災訓練を継続的に実施することが重要であるため、各避難所で明らかとなった課題を踏まえ、訓練内容の見直しや拡充などの改善を図りながら、今後も継続的に訓練を実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 市民局・市民生活部 | 人権政策・男女共同参画課 | デートDV防止出前講座 | デートDV防止出前講座 | 平成23年度 | コロナ禍を受け、動画を用いたオンラインによる出前講座を実施した。(参加者数1,402名) | 学生のデートDV防止への理解が深まった。 | 無 | 令和3年度以降も、オンラインにより実施予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | スポーツ文化局 | オリンピック・パラリンピック部 | 東京2020大会ボランティア推進事業 | 市内の既存の関係団体で構成するボランティア連絡協議会を通じて、本市の所掌するボランティアの準備を進めるとともに、市民の大会時のボランティア参画に対する関心や意欲の向上を図る。 | 平成29年度 | 大学コンソーシアムさいたまの幹事大学に委員として参画していただいた。 | ・大会時のボランティア活動の内容やレガシー化について、大学コンソーシアムとしての視点で確認をいただけた。 ・大学コンソーシアム内での東京2020大会時のボランティア情報の共有につながった。 | | 来年度も引き続き、大学コンソーシアムさいたまの幹事大学の方に参画いただく予定。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | スポーツ文化局 | オリンピック・パラリンピック部 | 東京2020大会に向けた気運醸成PR動画作成 | 東京2020オリンピック競技会場であるサッカーとバスケットボール競技の周知及び気運醸成のため、市民に向けたPR動画を制作する。 | 令和元年度 | PR動画作成 | 若い世代がチャレンジできる機会の提供ができ、行政とは違う視点での動画の作成ができた。 また、コストについても業者に委託するよりもかなりの低価格で制作することができた。 | | 未定 | | | | | | | | | | | | | | | 広報課と連携して実現した企画となります。 |
| 10 | 保健福祉局 | 健康増進課 | さいたま健康ネットワーク | 従業員の健康づくりについて組織的・戦略的に取り組む「健康経営」について、取り組む意思のある企業・団体を集め、セミナー、取組に関する情報共有、情報交換等を通じて健康経営を推進するもの。 | 平成29年度 | 校内における「スマートウェルネスさいたまNEWS」の周知啓発。 | 本市の健康づくり事業について、行政の声の届きにくい学生たちにも周知啓発ができた。 | https://www.city.saitama.jp/006/007/002/026/002/20180322.html | 引き続きセミナーでの連携や周知啓発を行うとともに、その他産学連携を目指していく予定。 | | ○ | | | | | | | | | | | | | |

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

様式1

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | | 備考 | |
|----|-------|-------------|---------------------------------|--|------------|--|---|---|---|----------|------------|------|------------|------------|-----------|----------|--------------|----------|----------|--------------------|-----|----|-----|
| | | | | | | | | | | 埼玉大 学 | 埼玉県 立大学 | 浦和大学 | 慶應義 塾大学 | 芝浦工 業大学 | 聖学院 大学 | 日本大 学 | 人間総合科学 大学 | 放送大 学 | 目白大 学 | 国際学院 埼玉短期 大学 | その他 | | 大学名 |
| 11 | 保健福祉局 | 健康増進課 | 九都県市受動喫煙防止対策共同キャンペーン | 九都県市で、受動喫煙による健康への悪影響に関する正しい知識や、公共的施設における受動喫煙防止の適切な取組を推進するため、共同でキャンペーンを実施している。 | 平成30年度 | 大学生に一定数喫煙者がいることから、学内での啓発ポスター掲示を依頼した。 | 大学生等に受動喫煙への意識啓発を図ることができた。 | 例年9月～11月のキャンペーン期間のみHPに記事を掲載 | 継続して実施する予定。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 12 | 保健福祉局 | 障害者更生相談センター | 高次脳機能障害当事者グループ「はじめの一步」 | 成人期の高次脳機能障害の当事者が、自分の強みと弱みを理解し、社会参加に向けた第一歩となることを目的に、当事者グループを月に2回の頻度で全8回を1クールとして、2クール実施している。 | 平成28年度 | 埼玉県立大学の作業療法学科の准教授に参加いただき、グループ運営や個別ケースへの対応について助言をいただいた。また、同大学の学生にボランティアとして1回参加いただき、高次脳機能障害への理解を深めてもらった。 | 高次脳機能障害のケースへの個別対応やグループ運営について、有益な助言が得られ、進行方法や事業内容の改善につながった。 | なし | 継続して実施する予定。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 環境局 | 環境対策課 | さいたま市内の河川におけるマイクロプラスチックチェック調査研究 | 市内河川におけるマイクロプラスチックの実態を把握するための調査研究を、埼玉大学及び市内分析事業者4社と共同で実施する。 | 令和元年度 | 市内の5河川7地点で調査を実施。関係者会議を1回開催。 | 新しい分野の調査であるが、すでに調査の実績がある埼玉大学の研究室を中心に調査、分析し、さらに、計量分析業務を専門に行っている分析事業者の意見をもたうことで、様々な知見を得ることができる。 | https://www.city.saitama.jp/001/009/014/p068315.html | さらに調査の実績を積み上げるとともに、調査結果をもとにマイクロプラスチックの抑制のための施策を検討し、市民や地元企業等も参加する様々な取組を実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 環境局 | 資源循環政策課 | チームEat All | 事業系食品ロスの削減に取り組む事業者等を「チームEat All」参加事業者として登録し、その旨を宣言していただくことにより、市と参加事業者が協働して食品ロスの削減を一層推進する。 | 令和元年度 | 事業系食品ロス削減のため、「チームEat All」の取組を普及促進する抽選プレゼントキャンペーンを市民向けに実施した。 | 大学、事業者など19者に参加いただき、キャンペーンに対して約1,800件の応募をいただくことができた。 | https://www.city.saitama.jp/001/006/012/003/002/p069903.html | チームとしての連携を継続的に実施していく。 | | | | | | | | | | | | | | |

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|----|-----|---------|-------------------------|--|------------|--|--|---|---|------|--------|------|--------|--------|-------|------|----------|------|------|------------|----|-----|------|--|--|--|
| | | | | | | | | | | 埼玉大学 | 埼玉県立大学 | 浦和大学 | 慶應義塾大学 | 芝浦工業大学 | 聖学院大学 | 日本大学 | 人間総合科学大学 | 放送大学 | 目白大学 | 国際学院埼玉短期大学 | | その他 | 大学名 | | | |
| 15 | 経済局 | 産業展開推進課 | さいたま市研究開発人材高度化タスクフォース事業 | 企業と大学等研究機関、さいたま市産業創造財団の3者共同研究実施により、企業・大学間の人材高度化を実現する。 | 平成21年度 | ・埼玉機器×埼玉大学 ・モリタ東京製作所×芝浦工業大学 ・エイチ・アイ・ティ×埼玉大学 | 企業の社内人材育成、企業研究機関のパイプ構築、学生のビジネスリテラシー向上、キャリア開発に貢献する。 | https://www.city.saitama.jp/005/002/010/011/p013370.html | 引き続き産学連携推進事業として実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | 経済局 | 産業展開推進課 | 高度ものづくり人材育成支援事業 | 製品化支援のためのプロトタイプング(試作開発)を実現する人材育成プログラムを大学の教員等によりカリキュラムを構築し、大学の施設を活用して市内企業の技術者に実施する。 | 平成26年度 | セミナー形式及び実践的実習形式を組み合わせたカリキュラムによる試作開発に資するプログラムを実施した。 | 大学の専門人材と装置・機器を活用することで、高度ものづくり人材を育成し、さいたま市内等企業の国際競争力を強化する。 | | 引き続き産学連携推進事業として実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | 経済局 | 労働政策課 | 学内合同企業説明会 | 埼玉大学において、在学生向けに、市内企業(さいたま市リーディングエッジ企業)による合同企業説明会を、共催により実施。 | 平成24年度 | 令和3年3月1日から3月5日に実施予定。市は広報物作成(リーディングエッジ企業の認証マークの使用)について協力。 | 求人意向のある市内企業と学生とのマッチングを図り、市内企業の技術力確保と、新規学卒者の市内就労を促進する。 | | 今後も年度1回程度、継続実施予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | 経済局 | 農業政策課 | 農学商連携事業 | 学生による農作業体験(紅赤の栽培) | 平成22年度 | 学生28名による農作業体験。 | 本市発祥のさつまいも(紅赤)のPRおよび農業の価値と魅力への理解が進んだ。 | | 苗の提供や紅赤のPRの連携を通じ、学生による農作業体験や紅赤を使用したメニューの製造販売を支援していく予定。 | | | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| 19 | 都市局 | 都市総務課 | さいたま市スマートシティ推進事業 | 公民学連携によりビッグデータやAI、IoT等の先進技術を活用した事業に取り組み、市民サービスの向上と持続可能なまちづくりの実現を図る | 令和2年度 | ・さいたま市スマートシティ推進コンソーシアムの会員として入会 ・大宮・さいたま新都心プロジェクト会議に3回参画 ・シェア型マルチモビリティの実証実験等に関する技術的助言 | 学識経験者にコンソーシアム会員として、専門的な視点での助言や講評を頂くことで、当該事業を円滑に推進し、市民サービスの向上に寄与した。 | - | 引き続きプロジェクト会議等への参加を依頼し、スマートシティの取組に関する実証実験や結果検証に関する助言を頂く。 | ○ | | | | | | | | | | | | ○ | 東京大学 | | | |

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

様式1

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|----|------|---------|----------------------|--|------------|---|---|---|--------------------------------------|-----|-------|-----|-------|-------|------|-----|---------|-----|-----|-----------|----|-----|-------------|--|
| | | | | | | | | | | 埼玉大 | 埼玉県立大 | 浦和大 | 慶應義塾大 | 芝浦工業大 | 聖学院大 | 日本大 | 人間総合科学大 | 放送大 | 目白大 | 国際学院埼玉短期大 | | その他 | 大学名 | |
| 24 | 桜区役所 | 総務課 | 明るい選挙啓発ポスター「絵画教室」 | 夏休みの小学生を対象とした「絵画教室」を開催する。 | 平成30年度 | 令和2年8月に開催し、埼玉大学の学生2名を講師に実技指導を行った。 | 美術の教員を目指す学生にとって、指導の経験を積むことができた。また、若い世代(講師、保護者、小学生)へ向けた選挙啓発、小学生の応募作品の増加につながった。 | https://www.city.saitama.jp/sakura/001/002/006/p074989.html | 継続して実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | 区内公民館との連携事業 | |
| 25 | 桜区役所 | コミュニティ課 | 桜区市民活動ネットワーク登録団体への支援 | 桜区に拠点を置き活動する市民団体を登録し、ゆるやかなつながり(ネットワーク)を構築するとともに、団体の事業周知、区役所内一部施設の貸出や補助金の交付等の支援を行う。 | 平成23年度 | むつめ祭常任委員会と埼玉大学イルミネーションプロジェクト実行委員会との2団体が桜区市民活動ネットワークへ登録しており、例年区報等へのイベント記事掲載などを行っている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、むつめ祭と埼玉大学イルミネーションが中止となった。 | 市民活動ネットワーク登録団体交流会などを通して、他の登録団体との交流や連携が深められ、地域のお祭りや他の登録団体主催事業への参加など活動が広がっており、地域活性化が図れることを見込んでいる。 | https://www.city.saitama.jp/sakura/001/002/008/network.html | 引き続き桜区市民活動ネットワークを通して、連携並びに支援を継続する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | 桜区役所 | 保健センター | 外国人留学生の母子保健に関する連携 | 埼玉大学の外国人留学生等が妊娠・出産の相談で保健センターを訪れることが多いため、大学の留学生相談担当部署と情報交換を行い、今後の留学生等の妊産婦支援に活かしていく。 | 令和2年度 | 7月1日に学生支援センター(国際課)を対象に、留学生の実態、言語面、生活面の支援状況等のヒアリングを行った。併せて、保健センターでの母子保健サービス等についての情報提供を行った。 | 外国人留学生や家族の生活状況や留学の背景等について情報が得られ、保健センターに訪れる妊産婦の理解に繋がった。大学側にも妊産婦支援の状況を伝えることができ、今後の連携が期待できる。 | | 継続して実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | 緑区役所 | コミュニティ課 | 区民フォーラムみどり | 緑区の広聴機能のひとつとして、意見の交換を通じて各々が新たな気づきを得るとともに、それらの知見を区の行政の参考とすることを目的に、意見交換及び交流の場として区民フォーラムみどりを実施する。 | 令和元年度 | 浦和大学の学生2名が参加した。 | 若い世代と意見交換することができた。 | https://www.city.saitama.jp/midori/001/002/010/p075700.html | 継続して実施する予定。 | | | ○ | | | | | | | | | | | | |

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

様式1

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|----|----------|-------|--------------------|--|------------|-----------------------------------|---|---|-------------|-----|-------|-----|-------|-------|------|-----|---------|-----|-----|-----------|----|--------|--|-----------|---|
| | | | | | | | | | | 埼玉大 | 埼玉県立大 | 浦和大 | 慶應義塾大 | 芝浦工業大 | 聖学院大 | 日本大 | 人間総合科学大 | 放送大 | 目白大 | 国際学院埼玉短期大 | | その他 | 大学名 | | |
| 37 | 教育委員会事務局 | 健康教育課 | 学校フィールド・スタディ | 埼玉大学教育学部養護教諭養成課程の学生による、学校現場における健康診断や日常の養護実践、学校保健委員会等の保健組織活動についての見学及び補助を受け入れる。(受け入れが可能な中央区の小・中学校) | 平成21年度 | 中央区の小学校6校、中学校2校において、8名の学生を受け入れた。 | 養護教諭を目指す学生が、学校現場における健康診断や日常の養護実践、学校保健委員会等の保健組織活動について理解を深め、将来に向けた養護教諭としての実践力を養うことができた。 | | 継続して実施する予定。 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 38 | 教育委員会事務局 | 教育研究所 | 研修事業・教職員研修 | 「『未来を拓くさいたま教育』を支える教職員研修の充実」を基本方針に、「さいたま市教員等資質向上指標」を踏まえ、教職員のキャリアアップに資する研修会の一層の充実に努める。 | 平成14年度 | 教育経営研修にて前橋工科大学小林教授にオンライン講座をお願いした。 | 大学教授等による最新の理論や指導方法等を提供することで、受講者の指導力の向上に役立てることができた。 | http://www.saitama-city.ed.jp/01ken-syu/020-ichiran.html | 継続して実施する予定。 | | | | | | | | | | | | ○ | 前橋工科大学 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、外部講師を招聘しての研修会はかなり限定して開催した。 | | |
| 39 | 教育委員会事務局 | 教育研究所 | 研修事業・「教師力」パワーアップ講座 | 平日の夜間に開催する教員の自主的・自発的な研修会。若手教員や教職を目指す学生をはじめとする市内の教職員などを対象に、「教師力」のさらなる向上、とりわけ授業力の向上を図る。 | 平成17年度 | 8月～12月、講座の予定一覧を送付した。 | 令和3年1月6日時点で延べ、284名の学生の参加があった。現職教員との関わり合いの中で、自身の教育観を磨いていた。 | http://www.saitama-city.ed.jp/90power/05-0power.html | 継続して実施する予定。 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ | 文教大学、共栄大学 | 新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて、令和2年8月20日～令和3年1月6日の期間のみ開催した。3月7日以降再開するか検討中である。 |
| 40 | 教育委員会事務局 | 教育研究所 | 研修事業・授業の達人大公開 | さいたま市学校教育の一層の充実を図るため、優れた指導方法の伝承と共有化及び活用を促進するとともに、優秀教職員表彰者の足跡や人間性に触れ、教職員の資質向上を図る。 | 平成21年度 | 優れた指導方法を持つ教員の授業動画を作成し、配信した。 | 優れた指導方法を持つ教員の授業動画を見ることで、自身の教育実践へのイメージを持たせることができた。 | http://www.saitama-city.ed.jp/01ken-syu/020-ichiran.html#tatsuiin | 継続して実施する予定。 | | | | | | | | | | | | | | | | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集約しての協議は開催していない。 |

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

様式1

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|----|----------|----------|---------------------------|--|------------|--|---|---|--------------------------------------|------|--------|------|--------|--------|-------|------|----------|------|------|------------|----|--|----------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | 埼玉大学 | 埼玉県立大学 | 浦和大学 | 慶應義塾大学 | 芝浦工業大学 | 聖学院大学 | 日本大学 | 人間総合科学大学 | 放送大学 | 目白大学 | 国際学院埼玉短期大学 | | その他 | 大学名 | |
| 41 | 教育委員会事務局 | 教育研究所 | 研修事業 ・さいたま市教師塾「夢」講座 | 「さいたま市が求める教師像」に示されている資質を確実に身に付け、教職への意欲と使命感に燃えるさいたま市の教員を大学生期から養成する。 | 平成30年度 | 受講生募集のリーフレットの配布等を行った。 | 令和2年度の「夢」講座受講生は、50名となった。さいたま市の教育についての理解を深め、さいたま市の教員になることの意欲をさらに高めることができた。 | http://www.saitama-city.ed.jp/01ken-syu/080-asunaro.html#yumekouza | 継続して実施する予定。 | ○ | | ○ | | | | | | | | | | 文教大学、共栄大学、十文字学園女子大学、東京国際大学、学習院大学、千葉大学、獨協大学、他 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から説明会は行っていない。 | |
| 42 | 教育委員会事務局 | 館岩少年自然の家 | 「自然に学ぶ夏の学校」むし・ほし・いしOnline | 中学校2年生を対象に「むし(昆虫採集)」「ほし(星空観察)」「いし(鉱物観察)」を中心とした自然体験活動を通して、五感を働かせて楽しく学ぶことを目的とする。スローガンは「未来の科学者を目指そう」 | 平成28年度 | コロナ禍で会場での実施が困難となったが、OnlineやVODを活用し、大学の講義室、現地配信、現地映像で疑似自然体験活動を行い、開催できた。 | 最先端の研究を行う、大学教授、准教授、講師、大学生が自然体験活動を実施することでその専門性が高まり、生徒が貴重な経験をすることができる。 | 開催3週間前から開催後1週間の限定的なHPを作成 | 引き続き、大学との連携を図っていく。実施の方法については要検討していく。 | | | | | | | | | | | | ○ | 東京大学 | | |
| 43 | 教育委員会事務局 | 生涯学習振興課 | チャレンジスクール推進事業 | 土曜日や放課後等に学校の教室等を活用して、より多くの幅広い層の地域住民、団体等の参画を得て、地域と学校が連携・協働して、子どもたちの自主的な学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の多様な活動を実施する。 | 平成19年度 | 大学へボランティア募集のチラシを配布し、事業の周知及び学生へのボランティア募集を実施した。 | コロナ禍にも関わらず、本年度についても大学生ボランティアが参加しており、活動の充実につながっている。 | https://www.city.y.saitama.jp/003/002/005/p008423.html | 引き続き、学生に協力を依頼する予定。 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ | 共栄大学 文教大学 | 浦和大学は教育インターシップとして、大学1年生が市立小学校4校のチャレンジスクールに参加している。 |

市と大学との連携事業調査表(令和2年度実績)

様式1

| No | 局区等 | 課等 | 事業名 | 事業内容 | 連携開始時期(年度) | 令和2年度実績 | 連携の効果 | 関連HP | 今後の方向性 | 連携先 | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|----|----------|--------------|---|---|------------|---|--|------|--|------|--------|------|--------|--------|-------|------|----------|------|------|------------|----|-----|-----|---------|-------------------------------|-------------------------|
| | | | | | | | | | | 埼玉大学 | 埼玉県立大学 | 浦和大学 | 慶應義塾大学 | 芝浦工業大学 | 聖学院大学 | 日本大学 | 人間総合科学大学 | 放送大学 | 目白大学 | 国際学院埼玉短期大学 | | その他 | 大学名 | | | |
| 52 | 教育委員会事務局 | 青少年宇宙科学館 | 高校生ロケット教室 | 5人1チームによる、モデルロケットの作成、打ち上げを行い、目標着地点に最も近いチームを競う。1日を通して、ロケットの仕組み、製作、試射、記録会までを行う。 | 令和元年度 | 講師として運営に携わった(学生3名)。 | 専門家の指導のもと、製作したロケットを実際に打ち上げる体験等を通して、生徒にもづくりの楽しさ、自分たちが作ったものがしっかり機能したときの喜びを味わわせることができた。 | | 継続して実施する予定。 | | | | | | | | | | | | | | ○ | 千葉工業大学 | | |
| 53 | 教育委員会事務局 | 青少年宇宙科学館 | 「宇宙のまちないたま」フォーラム | 3Dプリンターを用いて作成した材料を使って「月面ローバミニ」のキットを組み立てるワークショップの開催 | 令和2年度 | 講師として運営に携わった(教授1名、学生2名) | 最新の3Dプリンターを用いて、作る月面ローバの模型づくりに来館者も夢中で取り組む姿が見られ、宇宙か科学技術に対する興味関心が高まった。 | | 継続して実施する予定。 | | | | | | | | | | | | | | ○ | ものづくり大学 | | |
| 54 | 教育委員会事務局 | 生涯学習総合センター | さいたま市民大学(教養コース、ビジネススキルコース、歴史コース、社会と人権コース、食と健康コース) | 市民の方々の高度で専門的かつ多様な学習要求に応えるとともに、自発的な学習活動を促し、豊かな生涯学習社会を築くことを目的として、さいたま市民大学を開設する。 | 平成14年度 | さいたま市民大学各コースについて、講師に大学准教授、教授等を招き講演を行った。 | 市民の方々の高度で専門的な学習要求に応じることができた。 | | 市民の方々の高度で専門的な学習要求に応えるため、今後も継続して大学准教授、教授等の講師を招き講演を行う予定。 | | | | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | 青山学院大学、早稲田大学、武蔵大学、大阪経済大学、岐阜大学 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止 |
| 55 | 教育委員会事務局 | 岸町公民館(仲町公民館) | 夏休みチャレンジ教室/人権講座落語教室② | 学生落語サークルによる小学生を対象とした人権落語。 | 令和元年度 | 学生落語サークルによる小学生を対象とした人権落語を実施した。 | 若手の講師の指導で小学生が人権や落語を身近に感じることが出来た。 | | 実施せず(大学を卒業した講師個人に依頼の予定。) | | | | | | | | | | | | | ○ | | | 連携先を当初の2校から1校に変更。 | |
| 56 | 教育委員会事務局 | 管理課(大宮図書館) | インターンシップ | 大学において図書館司書課程を履修中の学生に対し、図書館業務の実習を行う。 | 令和元年度 | 立教大学 期間：10月2日(金)～10月15日(木) 人数：1名 | 図書館の運営や公共サービスについての理解を深めてもらえた。 | | 令和3年度の受け入れについては未定。 | | | | | | | | | | | | | | ○ | 立教大学 | | |